

もくじ

えび人 vol.83	2	文化会館・市民ギャラリー	10
今号の表紙	3	相談	11
海老名市市制施行53周年記念式典		図書館	12
市政発展の功労者を表彰	4	子育て・HUGHUG赤ちゃん	14
令和6年度 海老名文化スポーツ賞	5		

「広報えびな」の共通マークとルール

日日時・日にち 期間 時間 場所 対象 定員
 内容 講師 費用 持ち物 その他 任期
 条件 主催 Eメール ホームページ 問い合わせ
 申し込み 予約制 祝祭日を除く 休み

高齢者対象の教室など
 えびな健康マイレージ対象

市〇〇〇課への郵送…「〇〇〇課へ」とあるものは「〒243-0492海老名市役所〇〇〇課行」で届きます
 市役所開庁時間…省略している場合は原則「月～金8時30分～17時15分」

今号の表紙

題字と写真は市民の方の作品を掲載しています。ご協力ありがとうございました。

題字

えびな



「な」の四画目が一番むずかしかったです。
 今泉小学校 國岡優里耶さん(11歳)

写真

タイトル：それぞれの家路へ
 撮影場所：めぐみ町交差点
 撮影者：国分北在住 市川知寛さん



編集雑記

高校生時代、琴部に所属していた私は顧問の先生から琴をみんなで演奏する楽しさや伝統文化に触れることの大切さを学びました。この経験はアメリカに留学した際、自分の国を改めて見つめる良いきっかけとなりました。今の学生の方にもぜひ日本の伝統文化に触れていただきチャレンジしてもらいたいです。(F)



(写真上)「この子にはこの踊りをさせたいな」。生徒一人一人と向き合う日々
 (写真中)踊りで使う小道具も佐藤さんのアイデアから生み出される
 (写真下)「親獅子」は思い出の役。毛振りは体全体を使うのがこつ



伝統文化が衰退していることへの危機感から、小学校で日本舞踊の体験教室も行う佐藤さん。琴や茶道、華道など、さまざまな分野と手を組んで、次代の担い手を育てる活動も広げたいと考えています。「今日一日をどう生きたか、日々反すうします。その日、その場を一生懸命やりたい」。目の前の一人一人と丁寧に向き合い、文化伝承の素地作りにも進みます。

伝統文化を
 地域の子どもたちへ

佐藤さんは大学卒業後、中学校教諭を25年、その後学習塾を開業して25年と、教育の道を歩み続けてきました。パワフルで人のために自己犠牲を厭わない性格。トラブルを起こしがちな生徒とも真正面からぶつかり合い、心を通わせてきました。「武勇伝ならいくらでもある」と痛快に語り始めます。日本舞踊の指導にも教員の経験が生きて、「人生に無駄なことはない」ときっぱり。「堅苦しいと子どもはつまらないですよ。礼を教えるよりも、まずは踊りが楽しいと感じてもらったのが一番」

今月のえび人

佐藤よし江さん
 (国分寺台在住・82歳)

海老名市文化芸術協会初代会長。日本舞踊の師範として弟子の指導にあっている。好奇心旺盛で、スマホでドラマを見ることが日課。